

直播飼料稲栽培におけるイネツトムシの被害

古川農業試験場

1 取り上げた理由

稲食葉性害虫であるイネツトムシ（イチモンジセセリ）は、直播栽培や生育の遅れているほ場で多発しやすいことが知られている。本種による被害は葉の食害の他に、蛹になる時に作られるツトによって引き起こされる出穂障害や茎の折損が知られているが、茎葉も収量となる飼料稲における減収については不明であった。そこで平成14年（2002年：多発年）、平成15年（2003年：少発年）について、ツトの数の推移と減収程度の目安を策定したので参考資料とする。

2 参考資料

1) ツト数の推移

ツト数の経時的な変化は、2カ年ともピーク（9月第1半旬、第3半旬）を迎えた後漸減していき、黄熟期にはピーク時の半分程度に減少する（図1）。

2) 減収程度

最多ツト数が m^2 当り110～170個程度（多発時）の場合、風乾全重における減収率は約2～3割、 m^2 当り20～40個程度（少発時）の場合は1割前後である（図2、表1）。

3 利活用の留意点

- 1) 冷夏年を含む2カ年におけるツト数のピークは9月第1半旬（平成14年）、9月第3半旬（平成15年）であったが、おおよその目安とする。
- 2) 被害解析等における発生量の指標としてツト数を利用する場合は、経時的な変化があることから調査日を明確にする。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

平成16年4月作成

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

水稻・大豆・麦を基幹とした大規模水田輪作技術の組立実証（県単平成13年～17年）

2) 参考データ

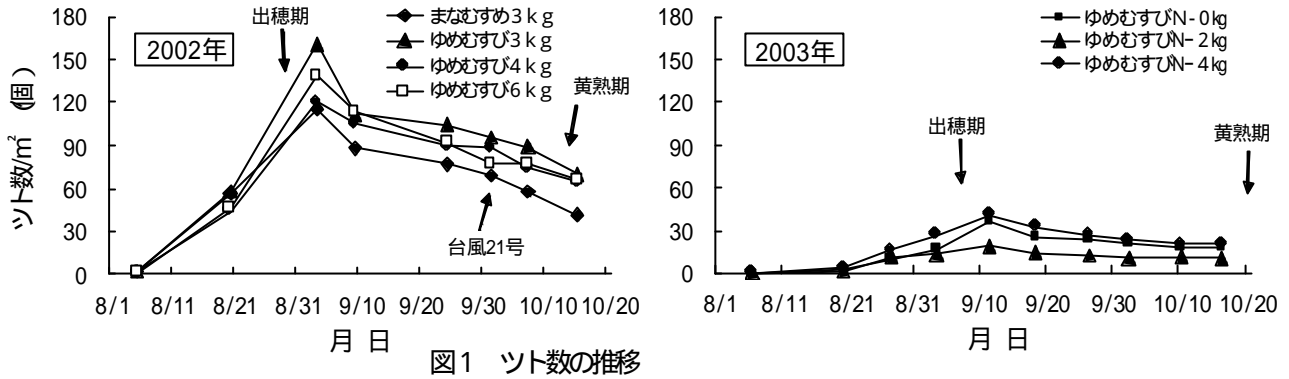


図1 ツト数の推移

注1) 両年とも5月21日播種の直播栽培。
注2) 左図は10a当たり播種量別、右図は追肥量別。

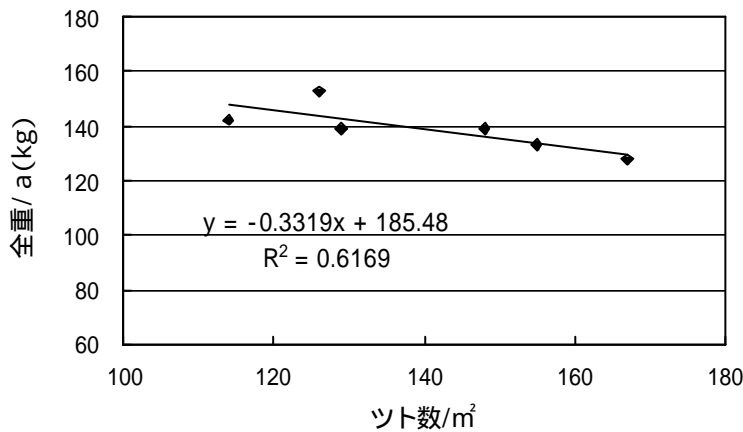


図2 多発年における最多ツト数と収量 (2002年)

注) 播種日 5月21日, 品種: ゆめむすび, ツト数: 93.

表1 少発年における最多ツト数と収量 (2003年)

区名	生重 (kg/a)	全重 (kg/a)	乾物率 (%)	籾重 (kg/a)	わら重 (kg/a)	最多ツト数 (個/m²)
ゆめむすびN-2 kg 防除区	333	163	49	66	97	2
無防除区	320	151	47	61	90	19
減収率 (%)	3.8	7.0	-	7.4	6.6	-
ゆめむすびN-4 kg 防除区	326	158	48	64	94	2
無防除区	284	136	48	57	80	41
減収率 (%)	12.9	13.6	-	11.1	15.3	-

注) 播種 5月21日, 播種量 7kg/10 a, 区名: 追肥量別, 乾燥: 風乾, ツト数: 9/11.

3) 発表論文等

北日本病害虫研究会報 第54号, p119-122, (2003: 平成15年)

